

工場ルポ

フレクシード 那珂工場

FLEXCEED(株) (フレクシード)の那珂工場(茨城県那珂市戸6707-1、☎0291-29710771)は、主に大型TV向けのなどの液晶ディスプレイに搭載されるドライバ・ICを裏装するチップオンフィルム(COF)の量産拠点だ。

もともと、新藤電子工業時代に開発したテープキャリアパッケージ(TCP)の量産拠点として1997年に竣工した。当時は最先端の40μmピッチの量産を行っていた。その後、2004年

東京・両国(墨田区)に、技術・設計部門は谷和原事業所(茨城県つくばみらい市)にそれぞれ移転させている。

16年7月からは堀江健一氏が新社長に就任、経営陣の刷新も行い、新たにフレクシードとして再スタートを切っている。

現在は、大型ディスプレイ用途のCOF需要が逼迫しており、フル稼働の状態が続く。1日2シフト、1週間5日が平均的な勤務体制だが、16年年明け以降は受注が急増しており、現在は土日とも稼働させる日が多いという。重量のある装置では

COF／TCPの量産拠点

高精細品需要増でフル稼働

国内唯一のTAB／COFメーカーとして存在感を発揮している。

その主力拠点である那珂工場は、世界のディスプレイメーカーや半導体メーカーからも注目が集まる。最近では4K／8Kテレビなど高精細なパネル需要が盛り上がりつつあるものの、高信頼性で低コストのテープサブスト

ト加工の工程もある。このほか測定室や実装工程も一部受け持つ。

現在は、22μmピッチのCOFを量産中である。同社はこれをサブトラクティブ工法(エッチング)で回路形成する唯一のメーカーだ。さらに20μmピッチのCOFを開発中で、近く量産化技術を確認する。有機ELなど今後の高精細なディスプレイ向けの需要が拡大すると見ている。また、新たな需要として、12μm厚の配線パターンを加工できる技術を持っており、これを高放熱COFとして顧客に売り込んでいる。特に高精細なディスプレイ表示が可能で、今後のスマホのメインディスプレイとして期待されている有機ELは、放熱対策の観点から断面積を上げる必要があり、同社製品は従来製品よりも放熱を3割ほど改善できることから業界でも注目されている。

今後とも、さらなるCOFの細線化ニーズが進むとみている。同社は1年ほど前に16μmピッチ以下のパターン加工が可能なエッチング装置を導入済みで、現在作り込みを行っている。年内には量産化に向けてめどをつける。あくまでもサブトラ工法で製造を行い、競合他社との差異化を進めていく考えだ。

(副編集長 野村和広)



那珂工場の外観